

土木積算システムにおける 横浜市週休2日制確保モデル工事の 補正計算について（その2）

令和2年4月1日以降に着手する横浜市週休2日制確保モデル工事における労務費、機械賃料、間接工事費（共通仮設費率及び現場管理費率）は、土木積算システムでは、以下のとおりに積算されています。

1. 労務費

週休2日の補正を行う場合、労務単価について週休2日の補正係数を乗じた補正済み単価を算出しています。

$$T' = R \cdot s$$

T' ：週休2日の補正済み労務単価（8時間当りの単価）

R ：労務単価（所定労働時間8時間当りの単価）

s ：週休2日の補正係数

労務費には「夜間工事による労務単価の割増」による単価の補正があります。今回の週休2日の補正と「夜間工事による労務単価の割増」を同時に適用する場合、補正単価は以下の式により算出しています。

- ① 「夜間工事による労務単価の割増」が一括割増の場合

$$T' = T \cdot s = R \cdot k \cdot s$$

T' ：週休2日の補正済み労務単価（8時間当りの単価）

T ：労務割増の補正済み労務単価（8時間当りの単価）

R ：労務単価（所定労働時間8時間当りの単価）

k ：労務割増（1時間当たりの割増率）

s ：週休2日の補正係数

- ② 「夜間工事による労務単価の割増」の場合

$$T = R \cdot \alpha \cdot K + \frac{(R - R \cdot \alpha) \times (1 + 0.0625h2) \times 8}{8 + h1} \quad \text{より}$$

$$T' = T \cdot s = \left\{ R \cdot \alpha \cdot K + \frac{(R - R \cdot \alpha) \times (1 + 0.0625h2) \times 8}{8 + h1} \right\} \times s$$

T' ：週休2日の補正済み労務単価（8時間当りの単価）

T ：労務割増の補正済み労務単価（8時間当りの単価）

R ：労務単価（所定労働時間8時間当りの単価）

α ：割増対象賃金比（構成比）

K ：労務調整係数

$h1$ ：所定労働時間外の超過時間（時間外）

$h2$ ：所定労働時間内の20時～6時にかかる時間

s ：週休2日の補正係数

週休2日の補正無し※現状の端数処理	週休2日の補正あり
補正式で計算した値に対し、 <u>円未満切捨</u> ての端数処理を行う。	補正式で計算した値に対し週休2日の補正係数を適用したあと、 <u>円未満切捨</u> ての端数処理を行う。

労務費に乘じる週休2日の補正係数

適用積算基準 週休2日達成率	土木工事標準積算基準書 下水道用設計標準歩掛表 水道事業実務必携	港湾土木請負工事積算基準
100% (※1)	1.05	1.05 (※2)
75%以上	1.03	— (補正なし)
50%以上	1.01	— (補正なし)

※1 適用工種が港湾工事の場合は、「4週8休以上」

※2 港湾土木請負工事積算基準で適用した補正対象外職種：高級船員、普通船員、潜水土、潜水送気員、潜水連絡員

【補足説明：「労務調整係数を用いた割増」について】

例：夜間工事で18～8時の場合



説明1. 超過時間

h1及びh2はそれぞれ以下の内容を示す。

h1：所定労働時間外の超過時間（時間外）

h2：所定労働時間内の20時～6時にかかる時間

実労働時間が上の例の場合、h1は4.5時間、h2は6時間となる。

説明2. 労務調整係数

積算上での労務単価は人日（8h）として計上している。その為、割り増し（残業）分を含めた実労働時間が労務単価（所定労働時間）の時間にて何時間になるか計算し、実労働時間の時間にて時給を均し労務単価（所定労働時間）の時給の何倍になるか算出したものが労務調整係数となる。

この例の場合、労務調整係数の計算式は以下となる。

$$K = \frac{A \times 1.0 + B \times 1.5 + C \times 1.5 + D \times 1.25}{A + B + C + D}$$

K ：労務調整係数

また、1時間当りの労務割増の補正済み労務単価を t とすると、1時間当りの労務単価 r は $R/8$ より

$$t = r \cdot k = \frac{R}{8} \cdot k = \frac{R \cdot k}{8} \quad \dots \dots \textcircled{1}$$

R ：労務単価（所定労働時間8時間当りの単価）

r ：1時間当りの労務単価

t ：1時間当りの労務割増の補正済み労務単価

k ：労務割増（1時間当たりの割増率）

労務割増の補正済み労務単価 T は、①より

$$T = 8 \cdot t = 8 \times \frac{R \cdot k}{8} = R \cdot k$$

T ：労務割増の補正済み労務単価（8時間当りの単価）

よって、労務調整係数を使用した単価補正の計算式は以下となる。

$$\begin{aligned} T &= R \cdot k \\ &= R \times \frac{A + 1.5B + 1.5C \cdot \alpha + 1.25D \cdot \alpha}{A + B + C + D} \\ &= R \times \frac{A + 1.5B + \alpha(1.5C + 1.25D)}{A + B + C + D} \\ &= R \times \frac{A + 1.5B}{A + B + C + D} + R \cdot \alpha \times \frac{1.5C + 1.25D}{A + B + C + D} \\ &= R \times \frac{A + 1.5B}{A + B + C + D} + R \cdot \alpha \times \frac{1.5C + 1.25D + (A + 1.5B) - (A + 1.5B)}{A + B + C + D} \\ &= R \times \frac{A + 1.5B}{A + B + C + D} + R \cdot \alpha \times \left(\frac{A + 1.5B + 1.5C + 1.25D}{A + B + C + D} - \frac{A + 1.5B}{A + B + C + D} \right) \\ &= R \times \frac{A + 1.5B}{A + B + C + D} + R \cdot \alpha \times \frac{A + 1.5B + 1.5C + 1.25D}{A + B + C + D} - R \cdot \alpha \times \frac{A + 1.5B}{A + B + C + D} \\ &= R \cdot \alpha \times \frac{A + 1.5B + 1.5C + 1.25D}{A + B + C + D} + (R - R \cdot \alpha) \times \frac{A + 1.5B}{A + B + C + D} \\ K &= \frac{A + 1.5B + 1.5C + 1.25D}{A + B + C + D} \text{ より} \end{aligned}$$

$$T = R \cdot \alpha \cdot K + (R - R \cdot \alpha) \times \frac{A + 1.5B}{A + B + C + D}$$

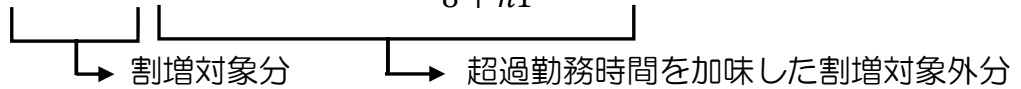
$$C + D = h1、B = h2、A = 8 - h2 \text{ より}$$

$$T = R \cdot \alpha \cdot K + (R - R \cdot \alpha) \times \frac{8 - h2 + 1.5h2}{8 - h2 + h2 + h1}$$

$$= R \cdot \alpha \cdot K + (R - R \cdot \alpha) \times \frac{8 + 0.5h2}{8 + h1}$$

$$= R \cdot \alpha \cdot K + (R - R \cdot \alpha) \times \frac{\left(1 + \frac{0.5}{8}h2\right) \times 8}{8 + h1}$$

$$= R \cdot \alpha \cdot K + (R - R \cdot \alpha) \times \frac{(1 + 0.0625h2) \times 8}{8 + h1}$$



T ：夜間工事による割増後の労務単価（8時間当りの単価）

R ：労務単価（所定労働時間8時間当りの単価）

k ：労務割増（1時間当たりの割増率）

α ：割増対象賃金比（構成比）

K ：労務調整係数

$h1$ ：所定労働時間外の超過時間（時間外）

$h2$ ：所定労働時間内の20時～6時にかかる時間

※以降の計算例において、0.5/8は計算済みの値「0.0625」と示す。

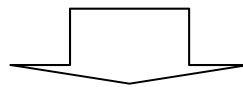
■労務費の補正についての計算例

名称：普通作業員
 単価：21,100 円
 割増対象賃金比：0.880

(1) 労務単価補正（昼間）

他の労務単価補正を行っていない状態から週休2日の補正（週休2日達成率 100%）をおこなう場合。

名 称	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
00001 普通作業員	R0102				
	人	1	21,100	21,100	



↓ 1.05 倍

名 称	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
00001 普通作業員	R0102				
	人	1	22,155	22,155	

$$T' = R \cdot s = 21,100 \text{ 円} \times 1.05$$

$$= 22,155 \text{ 円} \quad \text{※少数点以下切り捨て}$$

T' ：週休2日の補正済み労務単価（8時間当りの単価）
 R ：労務単価（所定労働時間8時間当りの単価）
 s ：週休2日の補正係数

(2) 労務単価補正（「夜間工事による労務単価の割増」が一括割増の場合）

一括割増の労務単価補正をおこなっている状態から週休2日の補正（週休2日達成率 100%）をおこなう場合

名 称	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
00001 ：夜間 普通作業員	R0102				
	人	1	31,650	31,650	

$$T = R \cdot k = 21,100 \text{ 円} \times 1.5$$

$$= 31,650 \text{ 円} \quad \text{※小数点以下切り捨て}$$

T ：労務割増の補正済み労務単価（8時間当りの単価）
 R ：労務単価（所定労働時間8時間当りの単価）
 k ：労務割増（1時間当りの割増率）（一括割増率）



↓ 1.05 倍

名 称	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
00001 ：夜間 普通作業員	R0102				
	人	1	33,232	33,232	

$$T' = R \cdot k \cdot s = 21,100 \text{ 円} \times 1.5 \times 1.05$$

$$= 33,232 \text{ 円} \quad \text{※小数点以下切り捨て}$$

- T' : 週休2日の補正済み労務単価 (8時間当りの単価)
- R : 労務単価 (所定労働時間8時間当りの単価)
- k : 労務割増 (1時間当りの割増率) (一括割増率)
- s : 週休2日の補正係数

(3) 労務単価補正 (夜間及び時間外)

労務単価補正をおこなっている状態から週休2日の補正 (週休2日達成率 100%) をおこなう場合。



$h1$ 、 $h2$ は以下となる。

- $h1 : 4.5h$
- $h2 : 6.0h$

また、上の場合の労務調整係数の算出結果は以下となる。

- ① 18:00~20:00 (2h) $2 \times 1.0 = 2$ (所定労働時間)
- ② 20:00~03:00 (6h) $6 \times 1.5 = 9$ (所定労働時間) (深夜割増し)
- ③ 03:00~05:00 (2h) $2 \times 1.5 = 3$ (時間外) (深夜割増し)
- ④ 05:00~08:00 (2.5h) $2.5 \times 1.25 = 3.125$ (時間外)

$$K = \frac{A + 1.5B + 1.5C + 1.25D}{A + B + C + D} = \frac{\text{①} + \text{②} + \text{③} + \text{④}}{A + B + C + D}$$

$$= \frac{2 + 9 + 3 + 3.125}{2 + 6 + 2 + 2.5} = 1.370 \text{ (労務調整係数)}$$

名 称	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
00001 : 労務割増 1.311 普通作業員	R0102				
	人	1	27,662	27,662	

$$T = R \cdot \alpha \cdot K + \frac{(R - R \cdot \alpha) \times (1 + 0.0625h2) \times 8}{8 + h1}$$

$$= 21,100 \times 0.880 \times 1.370 + \frac{(21,100 - 21,100 \times 0.880) \times (1 + 0.0625 \times 6) \times 8}{8 + 4.5}$$

$$= 27,666 \quad \text{※小数点以下切り捨て}$$

T : 夜間工事による割増後の労務単価 (8時間当りの単価)

R : 労務単価 (所定労働時間8時間当りの単価)

α : 割増対象賃金比 (構成比)

K : 労務調整係数

h1 : 所定労働時間外の超過時間 (時間外)

h2 : 所定労働時間内の20時~6時にかかる時間

労務割増 (1時間当りの割増率) k は、 $T = R \cdot k$ より

$$k = \frac{T}{R} = \frac{27,666}{21,100} = 1.311$$

k : 労務割増 (1時間当りの割増率)

よって、

$$T = R \cdot k = 21,100 \text{ 円} \times 1.311$$

$$= 27,662 \text{ 円} \quad \text{※小数点以下切り捨て}$$

T : 労務割増の補正済み労務単価 (8時間当りの単価)

R : 労務単価 (所定労働時間8時間当りの単価)

k : 労務割増 (1時間当りの割増率)



↓ 1.05 倍

名 称	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
00001 : 労務割増 1.311 普通作業員	R0102				
	人	1	29,045	29,045	

$$T' = R \cdot k \cdot s = 21,100 \text{ 円} \times 1.311 \times 1.05$$

$$= 29,045 \text{ 円} \quad \text{※小数点以下切り捨て}$$

T' : 週休2日の補正済み後労務単価 (8時間当りの単価)

R : 労務単価 (所定労働時間8時間当りの単価)

k : 労務割増 (1時間当りの割増率)

s : 週休2日の補正係数

(4) 労務単価補正（夜間及び時間外の補正済み単価の補正）
 (2) の単価を補正した場合。（例：単価補正：×1.25）

名 称	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
00001 : 労務割増 1.311 普通作業員	R0102				単価補正：*1.250
	人	1	34,577	34,577	

$$T = R \cdot k = 21,100 \text{ 円} \times 1.311$$

$$= 27,662 \text{ 円} \quad \text{※小数点以下切り捨て}$$

T : 労務割増の補正済み労務単価（8時間当りの単価）
 R : 労務単価（所定労働時間8時間当りの単価）
 k : 労務割増（1時間当りの割増率）

$$U = T \times (\text{単価補正}) = 27,662 \text{ 円} \times 1.25$$

$$= 34,577 \text{ 円} \quad \text{※小数点以下切り捨て}$$

U : T の労務単価（8時間当りの単価）に補正した単価



↓ 1.05 倍

名 称	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
00001 : 労務割増 1.311 普通作業員	R0102				単価補正：*1.250
	人	1	36,306	36,306	

$$T' = R \cdot k \cdot s = 21,100 \text{ 円} \times 1.311 \times 1.05$$

$$= 29,045 \text{ 円} \quad \text{※小数点以下切り捨て}$$

T' : 週休2日の補正済み労務単価（8時間当りの単価）
 R : 労務単価（所定労働時間8時間当りの単価）
 k : 労務割増（1時間当りの割増率）
 s : 週休2日の補正係数

$$U' = T' \times (\text{単価補正}) = 29,045 \text{ 円} \times 1.25$$

$$= 36,306 \text{ 円} \quad \text{※小数点以下切り捨て}$$

U' : T' の労務単価（8時間当りの単価）に補正した単価

※ 摘要欄に「単価補正：*0.000」及び「単価補正：/0.000」の記載がある場合は、端数処理した補正済み単価に摘要欄の単価補正（小数点以下切り捨て）の計算をします。

2. 機械賃料

機械賃料について週休2日の補正係数を乗じた補正済み単価を算出しています。

機械賃料には「夜間割増」による単価の補正があります。週休2日の補正と「夜間割増」を同時に適用する場合、補正単価は以下の式により算出しています。

$$X = L \cdot s$$

X ：週休2日の補正済み機械賃料 L ：機械賃料

s ：週休2日の補正係数

$$X' = X \times (1 + \text{夜間割増})$$

X' ：夜間割増済み単価（週休2日の補正済み機械賃料）

機械賃料に乘じる週休2日の補正係数

適用積算基準 週休2日達成率	土木工事標準積算基準書 下水道用設計標準歩掛表 水道事業実務必携	港湾土木請負工事積算基準
100%(*1)	1.04	—(補正なし)
75%以上	1.03	—(補正なし)
50%以上	1.01	—(補正なし)

*1 適用工種が港湾工事の場合は、「4週8休以上」

■機械賃料の補正についての計算例

名称：トラッククレーン [油圧伸縮ジブ型]

規格：4.9t 吊

単価：30,800 円 ※長期の賃貸に係る割引後の単価

(1) 昼間（夜間割増無し）

夜間割増をおこなっていない状態から週休2日の補正（週休2日達成率 100%）をおこなう場合。

名 称	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
00001 L001120001 トラッククレーン[油圧伸縮ジブ型] 4.9t吊	日	1	30,800	30,800	



↓ 1.04 倍

名 称	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
00001 L001120001 トラッククレーン[油圧伸縮ジブ型] 4.9t吊	日	1	32,032	32,032	

$$X = L \cdot s = 30,800 \text{ 円} \times 1.04$$

$$= 32,032 \text{ 円} \quad \text{※小数点以下切り捨て}$$

X ：週休2日の補正済み機械賃料 L ：機械賃料

s ：週休2日の補正係数

(2) 夜間割増有り

夜間割増をおこなっている状態から週休2日の補正（週休2日達成率 100%）をおこなう場合。

名 称	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
00001 L001120001 トラッククレーン[油圧伸縮ｼﾌﾞ型] 4.9t吊	日	1	40,040	40,040	単価補正：*1.300

$$L' = L \times (1 + \text{夜間割増}) = 30,800 \text{ 円} \times (1 + 0.3)$$

$$= 40,040 \text{ 円} \quad \text{※小数点以下切り捨て}$$

L' ：夜間割増済み単価 L ：機械賃料



↓ 1.04 倍

名 称	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
00001 L001120001 トラッククレーン[油圧伸縮ｼﾌﾞ型] 4.9t吊	日	1	41,641	41,641	単価補正：*1.300

$$X = L \cdot s = 30,800 \text{ 円} \times 1.04$$

$$= 32,032 \text{ 円} \quad \text{※小数点以下切り捨て}$$

X ：週休2日の補正済み機械賃料 L ：機械賃料

s ：週休2日の補正係数

$$X' = X \times (1 + \text{夜間割増}) = 32,032 \text{ 円} \times (1 + 0.3)$$

$$= 41,641 \text{ 円} \quad \text{※小数点以下切り捨て}$$

X' ：夜間割増済み単価（週休2日の補正後機械賃料）

※ 摘要欄に「単価補正：*0.000」及び「単価補正：/0.000」の記載がある場合は、端数処理した補正済み単価に摘要欄の単価補正（小数点以下切り捨て）の計算をします。

3. 土木工事標準単価

土木工事標準単価は、週休2日補正した単価を採用していますが、港湾土木請負工事積算基準にある土木工事標準単価（構造物とりこわし工）は補正しません。

4. 市場単価

市場単価は補正対象外ですが、港湾工事市場単価については、工種毎に週休2日の補正係数が設定されており、補正単価は以下の式により算出しています。

$$Y = Q_k \cdot s$$

Y：週休2日の補正済み港湾工事市場単価 Q_k ：港湾工事市場単価

s：週休2日の補正係数

$$Y' = Y \times (\text{施工規模等補正})$$

Y'：施工規模等補正済み単価（週休2日の補正済み港湾工事市場単価）

■港湾工事市場単価についての計算例

(1) 鉄筋加工組立以外の港湾工事市場単価

DHコード：ガス切断（DH117050）

条件区分：切断時間の指定 標準、施工区分 陸上、切断方法 手動、板厚 2mm、ラフテレーンクレーン無し、施工規模 10m 未満

港湾市場単価補正係数：1.05【現場鋼材溶接・切断工（陸上施工）】

名 称	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
00001 DH117050 ガス切断	m	1	2,420	2,420	
[入力条件]・・・標準, 陸上, 手動, 【2 mm】, 無し, 10m未満					

施工規模等補正の補正済みのガス切断 17.1m² 当り単価表

施工歩掛コード：DH117050

名 称	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
ガス切断(陸上施工)	m	17.1	2,420	41,382	(Q302001010)
手動 2mm以上10mm未満					
合計				41,382	
		1	当り	2,420	円/m

$$Y' = Q_k \times (\text{施工規模等補正}) = 2,200 \text{ 円} \times 1.1 \text{ (10m 未満)}$$

$$= 2,420 \text{ 円} \quad \text{※小数1位切捨て (港湾土木請負工事積算基準)}$$

Y'：施工規模等補正済み単価 Q_k ：港湾工事市場単価



↓ 週休2日補正済み港湾工事市場単価

名 称	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
00001 DH117050 ガス切断	m	1	2,541	2,541	
[入力条件]・・・標準, 陸上, 手動, 【2 mm】, 無し, 10m未満					

週休2日の補正済みのガス切断 17.1m² 当り単価表

施工歩掛コード：DH117050

名 称	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
ガス切断(陸上施工)(4週8休以上)					(Q382001010)
手動 2mm以上10mm未満	m	17.1	2,541	43,451	
合計				43,451	
		1	当り	2,541	円/m

$$Y' = Q_k' \times (\text{施工規模等補正}) = 2,310 \text{ 円} \times 1.1 \text{ (10m 未満)}$$

$$= 2,541 \text{ 円} \quad \text{※小数1位切捨て (港湾土木請負工事積算基準)}$$

Y'：施工規模等補正済み単価

Q_k'：週休2日補正済み港湾工事市場単価

(2) 鉄筋加工組立の港湾工事市場単価

DHコード：鉄筋加工組立 (DH141120)

条件区分：鉄筋 SD295AD13、ケーソン製作方法 陸上施工方式、クレーン機種の選定 陸上クレーン、陸上クレーンの機種 ラフテレーンクレーン、施工規模 40t 未満、構造形式 スリットケーソン

港湾市場単価補正係数：1.05【鉄筋工】

鉄筋(異形)SD295A D13 単価：73 (円/kg)

名 称	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
00001 DH141120 鉄筋加工組立					
[入力条件]・・・SD295A D13, 陸上施工方式, 陸上クレーン, ラフテレーンクレーン, (油圧伸縮ジブ型)16t吊, 40t未満, スリットケーソン	kg	1	151	151	

週休2日の補正済みの鉄筋組立 1,000kg 当り単価表

施工歩掛コード：DH141120

名 称	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
鉄筋(異形) SD295A D13	kg	1,030	73	75,190	(Z301010110)
鉄筋加工組立(ケーソン製作) クレーン抜き	kg	1,000	69.3	69,300	(Q300501010)
ラフテレーンクレーン(排出ガス対策型)(油圧伸縮ジブ型)16t吊	日	0.2	36,800	7,360	(DHT20850)
合計				151,850	
		1	当り	151	円/kg

$$Y' = Q_k \times (\text{施工規模等補正}) = 60 \text{ 円} \times 1.1 \text{ (40t 未満)} \times 1.05 \text{ (スリットケーソン)}$$

$$= 69.3 \text{ 円} \quad \text{※小数3位切捨て (港湾土木請負工事積算基準)}$$

Y'：施工規模等補正済み単価

Q_k：港湾工事市場単価



↓ 週休2日補正済み港湾工事市場単価

名 称	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
00001 鉄筋加工組立 DH141120 [入力条件]・・・SD295A D13, 陸上施工方式,陸上クレーン, ラフテレーンクレーン, (油圧伸縮ジブ型)16t吊,40t未満, スリットクレーン	kg	1	155	155	

週休2日の補正済みの鉄筋組立 1,000kg 当り単価表

施工歩掛コード：DH141120

名 称	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
鉄筋(異形) SD295A D13	kg	1,030	73	75,190	(Z301010110)
鉄筋加工組立(ケージ製作)(4週8休以上)					(Q380501010)
クレーン抜き	kg	1,000	72.76	72,760	
ラフテレーンクレーン(排出ガス対策型)(油圧伸縮ジブ型)16t吊	日	0.2	36,800	7,360	(DHT20850)
合計				155,310	
		1	当り	155	円/kg

$$Y' = Q_k' \times (\text{施工規模等補正}) = 63 \text{ 円} \times 1.1 \text{ (40t未満)} \times 1.05 \text{ (スリットクレーン)}$$

$$= 72.76 \text{ 円} \quad \text{※小数3位切捨て(港湾土木請負工事積算基準)}$$

Y'：施工規模等補正済み単価

Q_k'：週休2日補正済み港湾工事市場単価

5. 積上げ積算方式で単価が補正される労務費・機械賃料

積上げ積算方式で単価が補正される労務費・機械賃料について週休2日の補正係数を乗じた補正済み単価を算出しています。

労務費・機械賃料には入力条件や構成などにより単価が補正されるWBコードがあります。週休2日の補正と同時に適用する場合、補正単価は以下の計算例のように算出しています。

■週休2日の補正を適用した場合の計算例

(1) 機械賃料に補正があるWBコード

WBコード：プレキャストブロック設置（中詰除く）(WB220310)

条件区分：プレキャストブロック 1個/m²、アンカー無し、吸出し防止材無し、ラフレーンクレーン賃料補正係数 1.3（単価の30%割増し）

労務単価：夜間（一括割増率 1.5）

コンクリートブロック単価：5,000円

名 称	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
00001:夜間 WB220310 プレキャストブロック設置(中詰除く)	m ²	1	11,430	11,430	
[入力条件]・・・【1個/m ² 】、無、無、標準以外、【1.3】					

夜間の補正済み単価

「補正対象」労務及び賃料について、補正済みの単価

	名称	コード	① 単価	② 夜間割増	夜間の 補正済み単価 (①×②)
労 務	土木一般世話役	R0125	25,100	1.50	37,650 小数点以下切捨て
	ブロック工	R0108	25,100	1.50	37,650 小数点以下切捨て
	普通作業員	R0102	21,100	1.50	31,650 小数点以下切捨て

	名称	コード	① 単価	② 夜間割増	夜間の 補正済み単価 (①×②)
賃 料	ラフレーンクレーン[油圧伸縮ダブ型] 25t吊	L001130006	42,000	1.30	54,600 小数点以下切捨て

夜間の補正済みのプレキャストブロック設置(中詰除く)100m² 当り単価表

昼夜区分: 夜 間

施工歩掛コード: WB220310

名 称	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
土木一般世話役	人	2.778	37,650	104,591	(R0125) [1]
ブロック工	人	2.778	37,650	104,591	(R0108) [1]
普通作業員	人	8.333	31,650	263,739	(R0102) [1]
コンクリートブロック	個	100	5,000	500,000	(Y000361000)
ラフレソールン[油圧伸縮ｼﾞﾌﾞ型] 25t吊	日	2.778	54,600	151,678	(L001130006) [1]
諸雑費(率+まるめ) Σ[1] * 0.0300	式	1	18,401	18,401	(ZS8000004)
合計				1,143,000	
		1	当り	11,430	円/m ²



↓ 1.05 倍 (労務費)、1.04 倍 (機械賃料)

名 称	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
00001:夜 間 WB220310 プレキャストブロック設置(中詰除く) [入力条件]...【1 個/m ² 】, 無, 無, 標準以外, 【1.3】	m ²	1	11,730	11,730	

週休2日の補正後単価

「補正対象」労務及び賃料について、補正済みの単価

	名称	コード	① 単価	② 夜間割増	③ 週休2日 補正係数	週休2日 補正済み単価 (①×②×③)
労 務	土木一般世話役	R0125	25,100	1.50	1.05	39,532 小数点以下切捨て
	ブロック工	R0108	25,100	1.50	1.05	39,532 小数点以下切捨て
	普通作業員	R0102	21,100	1.50	1.05	33,232 小数点以下切捨て

	名称	コード	① 単価 (円)	② 週休2日 補正係数	③ 週休2日 補正済み単価 (①×②)	④ 夜間 割増	週休2日 (夜間割増) 補正済み単価 (③×④)
賃 料	ラフレソールン[油圧伸縮ｼﾞﾌﾞ型] 25t吊	L001130006	42,000	1.04	43,680 小数点以下切捨て	1.30	56,784 小数点以下切捨て

週休2日の補正済みのプレキャストブロック設置(中詰除く)100m2 当り単価表

昼夜区分: 夜 間

施工歩掛コード: WB220310

名 称	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
土木一般世話役	人	2.778	39,532	109,819	(R0125) [1]
ブロック工	人	2.778	39,532	109,819	(R0108) [1]
普通作業員	人	8.333	33,232	276,922	(R0102) [1]
コンクリートブロック	個	100	5,000	500,000	(Y000361000)
ラフレソルトン[油圧伸縮タイプ] 25t吊	日	2.778	56,784	157,745	(L001130006) [1]
諸雑費(率+まるめ) Σ[1] * 0.0300	式	1	18,695	18,695	(ZS8000004)
合計				1,173,000	
		1	当り	11,730	円/m2

(2) 労務に補正があるWBコード

WBコード: 朝顔(床版補強工用)(WB431370)

条件区分: 片側朝顔、朝顔架設供用月数 1月

名 称	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
00001 朝顔(床版補強工用) [入力条件]...片側朝顔,【1月】	WB431370 m2	1	349	349	

片側設置の場合

補正済みの単価(両側設置の1/2)

	名称	コード	① 単価	② 片側設置	片側設置の単価 (①×②)
労務	橋りょう特殊工	R0122	29,500	0.50	14,750 小数点以下切捨て

朝顔(床版補強工用)(片側設置)1m2 当り単価表

施工歩掛コード: WB431370

名 称	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
足場材損料	月	0.5	50	25	(Z004516002) [1]
橋りょう特殊工	人	0.022	14,750	324	(R0122) [1]
諸雑費(率+まるめ) Σ[1]	式	1	0	0	(ZS3000004)
合計				349	
		1	当り	349	円/m2



↓ 1.05 倍 (労務費)

名 称	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
00001 朝顔(床版補強工用)	WB431370				
[入力条件]...片側朝顔,【1月】	m2	1	362	362	

週休2日の補正済み単価
「補正対象」労務について、補正済みの単価

	名称	コード	① 単価	② 週休2日 補正係数	③ 週休2日 補正済み単価 (①×②)	④ 片側設置	片側設置 (週休2日補正) 補正済み単価 (③×④)
労務	橋りょう特殊工	R0122	29,500	1.05	30,975 小数点以下切捨て	0.50	15,487 小数点以下切捨て

週休2日の補正済みの朝顔(床版補強工用)(片側設置) 1m2 当り単価表

施工歩掛コード: WB431370

名 称	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
足場材損料	月	0.5	50	25	(Z004516002) [1]
橋りょう特殊工	人	0.022	15,487	340	(R0122) [1]
諸雑費(率+まるめ) Σ[1]	式	1	0	0	(ZS3000004)
合計				365	
		1	当り	365	円/m2

6. 施工パッケージ型積算方式の積算単価

施工パッケージ積算単価 P' を算出する際の補正式では、「横浜市の積算年月における単価」に補正済みの労務費・機械賃料・土木工事標準単価を用いて算出しています。

【横浜市の積算年月における単価】

労務費： $R1t'$ 、 $R2t'$ 、 $R3t'$ 、 $R4t'$

機械賃料： $K1t'$ 、 $K2t'$ 、 $K3t'$ 、 $K4t'$ ※賃料のみ

土木工事標準単価： $Q1t'$ ※土木工事標準単価のみ

構成比 (%)： Kr 、 Rr 、 Zr 、 Qr

$$P' = P \times \left\{ \left(\frac{K1r}{100} \times \frac{K1t'}{K1t} + \dots + \frac{K3r}{100} \times \frac{K3t'}{K3t} \right) \times \frac{Kr}{K1r + K2r + K3r} \right. \\ + \left(\frac{R1r}{100} \times \frac{R1t'}{R1t} + \dots + \frac{R4r}{100} \times \frac{R4t'}{R4t} \right) \times \frac{Rr}{R1r + R2r + R3r + R4r} \\ + \left(\frac{Z1r}{100} \times \frac{Z1t'}{Z1t} + \dots + \frac{Z4r}{100} \times \frac{Z4t'}{Z4t} \right) \times \frac{Zr}{Z1r + Z2r + Z3r + Z4r} \\ \left. + \left(\frac{Q1r}{100} \times \frac{Q1t'}{Q1t} \right) \times \frac{Qr}{Q1r} + \frac{100 - Kr - Rr - Zr - Qr}{100} \right\}$$

凡例 ・・・週休2日の補正済みの値

P' ：積算単価（横浜、積算年月）

P ：標準単価（東京地区、基準年月）

市場単価を含む施工パッケージについては、市場単価は週休2日の補正対象外であるため、 $Q1t'$ は補正されない。

■週休2日の補正を適用した場合の計算例

(1) 昼間（労務の夜間割増無し）

夜間割増をおこなっていない状態から週休2日の補正（週休2日達成率100%）をおこなう場合。

施工パッケージ名称：L型擁壁（CB226350）

条件区分：18-8-25(高炉)、鉄筋量 0.08t/m³ 以上 0.10t/m³ 未満
基礎砕石有り、均しコンクリート有、仮囲いジェットヒータ養生、
圧送管延長無し

標準単価：49,468 円

名 称	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
00015 CB226350 L型擁壁	m ³				
[入力条件]・・・21-8-25(20)(高炉), 0.08t/m ³ 以上0.10t/m ³ 未満, 標準(1.0),有り,有り, 仮囲い内ジェットヒータ養生,延長無し		1	49,170	49,170	

週休2日の補正前のL型擁壁（CB226350）の代表規格・構成比

	規格	コード	構成比 (%)	東京単価 (円)	横浜単価 (円)	補正対象
K			2.33	—	—	
K1	コンクリートポンプ車[トラック架装・ポンプ式] 圧送能力 90~110m ³ /h	M000903010	1.28	51,800	51,800	
K2	ジェットヒータ 126MJ(30, 100kcal)	LO01160000	0.32	747	747	○
K3	発動発電機[ディーゼルエンジン駆動] 2.7/3kVA	M001510005	0.21	416	416	
K4						
R			41.31	—	—	
R1	普通作業員	R0102	14.86	20,200	21,100	○
R2	型わく工	R0133	9.64	25,100	25,600	○
R3	土木一般世話役	R0125	3.42	24,200	25,100	○
R4	特殊作業員	R0101	0.93	23,200	24,400	○
Z			44.27	—	—	
Z1	生コンクリート 18-8-25(高炉)	Z002012001	28.73	13,900	12,700	
Z2	鉄筋コンクリート用棒鋼 SD345 D16~25	Z001102020	13.49	72,000	74,000	
Z3	灯油 白灯油 業務用	Z006706001	1.47	74	83	
Z4	軽油 1.2号	Z006702002	0.50	110	115	
S	鉄筋工 加工・組立共 一般構造物	Q001001002	12.09	66,500	65,500	

※ 機械単価、労務単価、材料単価、市場単価は仮定の単価とする。

$$P' = 49,468$$

$$\begin{aligned} & \times \left\{ \left(\frac{1.28}{100} \times \frac{51,800}{51,800} + \frac{0.32}{100} \times \frac{747}{747} + \frac{0.21}{100} \times \frac{416}{416} \right) \times \frac{2.33}{1.28 + 0.32 + 0.21} \right. \\ & + \left(\frac{14.86}{100} \times \frac{21,100}{20,200} + \frac{9.64}{100} \times \frac{25,600}{25,100} + \frac{3.42}{100} \times \frac{25,100}{24,200} + \frac{0.93}{100} \times \frac{24,400}{23,200} \right) \\ & \quad \times \frac{41.31}{14.86 + 9.64 + 3.42 + 0.93} \\ & + \left(\frac{28.73}{100} \times \frac{12,300}{13,900} + \frac{13.49}{100} \times \frac{74,000}{72,000} + \frac{1.47}{100} \times \frac{83}{74} + \frac{0.50}{100} \times \frac{115}{110} \right) \\ & \quad \times \frac{44.27}{28.73 + 13.49 + 1.47 + 0.50} \\ & \left. + \frac{12.09}{100} \times \frac{65,500}{66,500} + \frac{100 - 2.33 - 41.31 - 44.27 - 12.09}{100} \right\} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} = & 49,468 \times \{ (0.01280 + 0.00320 + 0.00210) \times 1.28729 \\ & + (0.15522 + 0.09832 + 0.03547 + 0.00978) \times 1.43189 \\ & + (0.26250 + 0.13865 + 0.01649 + 0.00523) \times 1.00181 \\ & + 0.11908 + 0.00000 \} \end{aligned}$$

$$= 49,468 \times (0.01810 \times 1.28729 + 0.29879 \times 1.43189 + 0.42287 \times 1.00181 + 0.11908 + 0.00000)$$

$$= 49,170 \text{ (円/m}^3\text{)} \quad \text{※有効数字4桁、5桁目以降切り上げ}$$



↓ 1.05 倍 (労務費)、1.04 倍 (機械賃料)

名 称	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
00001 CB226350 L型擁壁	m ³				
[入力条件]・・・21-8-25(20)(高炉), 0.08t/m ³ 以上0.10t/m ³ 未満, 標準(1.0),有り,有り, 仮囲い内ジェットヒータ養生,延長無し		1	50,240	50,240	

週休2日の補正済み単価

「補正対象」賃料及び労務について、補正済みの単価

	規格	コード	① 横浜単価	② 週休2日 補正係数	週休2日の 補正済み単価 (①×②)
K2	ジェットヒータ 126MJ(30,100kcal)	LOO1160000	747	1.04	776 小数点以下切捨て

	規格	コード	① 横浜単価	② 週休2日 補正係数	週休2日の 補正済み単価 (①×②)
R1	普通作業員	RO102	21,100	1.05	22,155 小数点以下切捨て
R2	型わく工	RO133	25,600	1.05	26,880 小数点以下切捨て
R3	土木一般世話役	RO125	25,100	1.05	26,355 小数点以下切捨て
R4	特殊作業員	RO101	24,400	1.05	25,620 小数点以下切捨て

週休2日の補正済みのL型擁壁（CB226350）の代表規格・構成比

	規格	コード	構成比 (%)	東京単価 (円)	横浜単価 (円)	補正対象
K			2.33	—	—	
K1	コンクリートポンプ車[トラック架装・ブーム式] 圧送能力 90~110m ³ /h	M000903010	1.28	51,800	51,800	
K2	ジェットター 126MJ(30、100kcal)	L001160000	0.32	747	776	○
K3	発動発電機[ディーゼルエンジン駆動] 2.7/3kVA	M001510005	0.21	416	416	
R			41.31	—	—	
R1	普通作業員	RO102	14.86	20,200	22,155	○
R2	型わく工	RO133	9.64	25,100	26,880	○
R3	土木一般世話役	RO125	3.42	24,200	26,355	○
R4	特殊作業員	RO101	0.93	23,200	25,620	○
Z			44.27	—	—	
Z1	生コンクリート 18-8-25(高炉)	Z002012001	28.73	13,900	12,700	
Z2	鉄筋コンクリート用棒鋼 SD345 D16~25	Z001102020	13.49	72,000	74,000	
Z3	灯油 白灯油 業務用	Z006706001	1.47	74	83	
Z4	軽油 1.2号	Z006702002	0.50	110	115	
S	鉄筋工 加工・組立共 一般構造物	Q001001002	12.09	66,500	65,500	

$$P' = 49,468$$

$$\begin{aligned} & \times \left\{ \left(\frac{1.28}{100} \times \frac{51,800}{51,800} + \frac{0.32}{100} \times \frac{776}{747} + \frac{0.21}{100} \times \frac{416}{416} \right) \times \frac{2.33}{1.28 + 0.32 + 0.21} \right. \\ & + \left(\frac{14.86}{100} \times \frac{22,155}{20,200} + \frac{9.64}{100} \times \frac{26,880}{25,100} + \frac{3.42}{100} \times \frac{26,355}{24,200} + \frac{0.93}{100} \times \frac{25,620}{23,200} \right) \\ & \quad \times \frac{41.31}{14.86 + 9.64 + 3.42 + 0.93} \\ & + \left(\frac{28.73}{100} \times \frac{12,700}{13,900} + \frac{13.49}{100} \times \frac{74,000}{72,000} + \frac{1.47}{100} \times \frac{83}{74} + \frac{0.50}{100} \times \frac{115}{110} \right) \\ & \quad \times \frac{44.27}{28.73 + 13.49 + 1.47 + 0.50} \\ & \left. + \frac{12.09}{100} \times \frac{65,500}{66,500} + \frac{100 - 2.33 - 41.31 - 44.27 - 12.09}{100} \right\} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} & = 49,468 \times \{ (0.01280 + 0.00322 + 0.00210) \times 1.28729 \\ & \quad + (0.16298 + 0.10324 + 0.03725 + 0.01027) \times 1.43189 \\ & \quad + (0.26250 + 0.13865 + 0.01649 + 0.00523) \times 1.00181 \\ & \quad + 0.11908 + 0.00000 \} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} & = 49,468 \times (0.01822 \times 1.28729 + 0.31374 \times 1.43189 + 0.42287 \times 1.00181 \\ & \quad + 0.11908 + 0.00000) \end{aligned}$$

= 50,240 (円/m3) ※有効数字4桁、5桁目以降切り上げ

凡例 . . . 週休2日の補正済みの値

(2) 夜間割増有り

夜間割増をおこなっている状態から週休2日の補正（週休2日達成率 100%）をおこなう場合。

施工パッケージ名称：桁 1 次切断・撤去 (CB224940)
 条件区分：トラッククレーン 油圧伸縮ジブ型 100 t 吊、相吊クレーン無し、
 トラッククレーン賃料補正係数 1.3 (単価の 30%割増し)
 労務単価：夜間 (一括割増率 1.5)
 標準単価：12,320 円

名 称	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
00001 :夜間 CB224940 桁1次切断・撤去	t	1	17,700	17,700	
[入力条件]・・・トラッククレーン 油圧伸縮ジブ型 100t吊、無し、標準以外、 [1.3]					

夜間補正前の桁 1 次切断・撤去 (CB224940) の代表規格・構成比

	規格	コード	構成比 (%)	東京単価 (円)	横浜単価 (円)
K			49.68	—	—
K1	トラッククレーン[油圧伸縮ジブ型] 100t吊	LOO1120011	49.68	159,000	159,000
R			50.32	—	—
R1	溶接工	RO113	18.25	29,200	30,600
R2	特殊作業員	RO101	14.48	23,200	24,400
R3	土木一般世話役	RO125	7.56	24,200	25,100
R4	普通作業員	RO102	6.31	20,200	21,100

※ 機械単価、労務単価、材料単価、市場単価は仮想の単価とする。

$$\begin{aligned}
 P' &= 12,320 \times \left\{ \left(\frac{49.68}{100} \times \frac{159,000}{159,000} \right) \times \frac{49.68}{49.68} \right. \\
 &\quad + \left(\frac{18.25}{100} \times \frac{30,600}{29,200} + \frac{14.48}{100} \times \frac{24,400}{23,200} + \frac{7.56}{100} \times \frac{25,100}{24,200} + \frac{0.631}{100} \times \frac{21,100}{20,200} \right) \\
 &\quad \times \frac{50.32}{18.25 + 14.48 + 7.56 + 6.31} + \left. \frac{100 - 49.68 - 50.32}{100} \right\} \\
 &= 12,320 \times \{ 0.49680 \times 1.00000 \\
 &\quad + (0.19125 + 0.15229 + 0.07841 + 0.06591) \times 1.07983 + 0.00000 \}
 \end{aligned}$$

$$= 12,320 \times (0.49680 \times 1.00000 + 0.48786 \times 1.07983 + 0.00000)$$

$$= 12,620 \text{ (円/t)} \quad \text{※有効数字4桁、5桁目以降切り上げ}$$

夜間の補正済み単価

「補正対象」賃料及び労務について、補正済みの単価

	規格	コード	① 横浜単価	② 夜間割増	夜間の 補正済み単価 (①×②)
K1	トラックレーン[油圧伸縮ゾブ型] 100t吊	LOO1120011	159,000	1.30	206,700 小数点以下切捨て

	規格	コード	① 横浜単価	② 夜間割増	夜間の 補正済み単価 (①×②)
R1	溶接工	RO113	30,600	1.50	45,900 小数点以下切捨て
R2	特殊作業員	RO101	24,400	1.50	36,600 小数点以下切捨て
R3	土木一般世話役	RO125	25,100	1.50	37,650 小数点以下切捨て
R4	普通作業員	RO102	21,100	1.50	31,650 小数点以下切捨て

夜間の補正済みの桁1次切断・撤去 (CB224940) の代表規格・構成比

	規格	コード	構成比 (%)	東京単価 (円)	横浜単価 (円)	補正 対象
K			49.68	—	—	
K1	トラックレーン[油圧伸縮ゾブ型] 100t吊	LOO1120011	49.68	159,000	206,700	○
R			50.32	—	—	
R1	溶接工	RO113	18.25	29,200	45,900	○
R2	特殊作業員	RO101	14.48	23,200	36,600	○
R3	土木一般世話役	RO125	7.56	24,200	37,650	○
R4	普通作業員	RO102	6.31	20,200	31,650	○

$$P' = 12,320 \times \left\{ \left(\frac{49.68}{100} \times \frac{206,700}{159,000} \right) \times \frac{49.68}{49.68} \right.$$

$$+ \left(\frac{18.25}{100} \times \frac{45,900}{29,200} + \frac{14.48}{100} \times \frac{36,600}{23,200} + \frac{7.56}{100} \times \frac{37,650}{24,200} + \frac{6.31}{100} \times \frac{31,650}{20,200} \right)$$

$$\times \frac{50.32}{18.25 + 14.48 + 7.56 + 6.31} + \frac{100 - 49.68 - 50.32}{100} \left. \right\}$$

$$= 12,320 \times \{0.64584 \times 1.00000$$

$$+ (0.28688 + 0.22843 + 0.11762 + 0.09887) \times 1.07983 + 0.00000$$

$$= 12,320 \times (0.64584 \times 1.00000 + 0.73180 \times 1.07983 + 0.00000)$$

$$= 17,700 \text{ (円/t)} \quad \text{※有効数字4桁、5桁目以降切り上げ}$$



↓1.05倍（労務費）、1.04倍（機械賃料）

名 称	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
00001 :夜間 CB224940 桁1次切断・撤去	t	1	18,500	18,500	
[入力条件]・・・トラックレール 油圧伸縮ゾ ブ型 100t吊, 無し, 標準以外, 【1.3】					

週休2日の補正済み単価

「補正対象」賃料及び労務について、補正済みの単価

	規格	コード	① 横浜単価	② 週休2日 補正係数	③ 週休2日 補正済み単価 (①×②)	④ 夜間 割増	週休2日 (夜間割増) 補正済み単価 (③×④)
K1	トラックレール[油圧伸縮ゾブ型] 100t吊	LO01120011	159,000	1.04	165,360 小数点以下切捨て	1.30	214,968 小数点以下切捨て

	規格	コード	① 横浜単価	② 夜間 割増	③ 週休2日 補正係数	週休2日 (夜間割増) 補正済み単価 (①×②×③)
R1	溶接工	RO113	30,600	1.50	1.05	48,195 小数点以下切捨て
R2	特殊作業員	RO101	24,400	1.50	1.05	38,430 小数点以下切捨て
R3	土木一般世話役	RO125	25,100	1.50	1.05	39,532 小数点以下切捨て
R4	普通作業員	RO102	21,100	1.50	1.05	33,232 小数点以下切捨て

週休2日の補正後の桁1次切断・撤去（CB224940）の代表規格・構成比

	規格	コード	構成比 (%)	東京単価 (円)	横浜単価 (円)	補正 対象
K			49.68	—	—	
K1	トラックレール[油圧伸縮ゾブ型] 100t吊	LO01120011	49.68	159,000	214,968	○
R			50.32	—	—	
R1	溶接工	RO113	18.25	29,200	48,195	○
R2	特殊作業員	RO101	14.48	23,200	38,430	○
R3	土木一般世話役	RO125	7.56	24,200	39,532	○
R4	普通作業員	RO102	6.31	20,200	33,232	○

$$P' = 12,320 \times \left\{ \left(\frac{49.68}{100} \times \frac{214,968}{159,000} \right) \times \frac{49.68}{49.68} \right. \\ \left. + \left(\frac{18.25}{100} \times \frac{48,195}{29,200} + \frac{14.48}{100} \times \frac{38,430}{23,200} + \frac{7.56}{100} \times \frac{39,532}{24,200} + \frac{06.31}{100} \times \frac{33,232}{20,200} \right) \right. \\ \left. \times \frac{50.32}{18.25 + 14.48 + 7.56 + 6.31} + \frac{100 - 49.68 - 50.32}{100} \right\}$$

$$= 12,320 \times \{ 0.67167 \times 1.00000 \\ + (0.30122 + 0.23986 + 0.12350 + 0.10381) \times 1.07983 + 0.00000 \}$$

$$= 12,320 \times (0.67167 \times 1.00000 + 0.76839 \times 1.07983 + 0.00000)$$

$$= 18,500 \text{ (円/t)} \quad \text{※有効数字4桁、5桁目以降切り上げ}$$

凡例 . . . 週休2日の補正済みの値

7. 間接工事費における週休2日の補正の計算

週休2日を実施する工事において、間接工事費（共通仮設費率及び現場管理費率）に対して補正を行っています。

(1) 共通仮設費率

共通仮設費率に乗じる週休2日の補正係数

適用工種	右記以外(※2)	港湾工事
週休2日達成率		
100%(※1)	1.04	—(補正なし)
75%以上	1.03	—(補正なし)
50%以上	1.01	—(補正なし)

※1 適用工種が港湾工事の場合は、「4週8休以上」

※2 適用工種：河川工事、河川・道路構造物工事、海岸工事、道路改良工事、鋼橋架設工事、PC橋工事、橋梁保全工事、舗装工事、共同溝等工事(1)、共同溝等工事(2)、トンネル工事、砂防・地すべり等工事、道路維持工事、河川維持工事、下水道工事(1)、下水道工事(2)、下水道工事(3)、公園工事、コンクリートダム工事、フィルダム工事、電線共同溝工事、情報ボックス工事、鋼橋製作工、開削工事及び小口径推進工事、シールド工事及び推進工事、構造物工事(浄水場等)

補正時の共通仮設費率計算式

① 共通仮設費率（補正前）

現行積算基準に基づいて共通仮設費対象額によって算出された率

$$Kr = A \cdot P^b \quad (\text{小数点第3位四捨五入2位止め})$$

Kr ：共通仮設費率（％）（補正前）

P ：共通仮設費対象額 A, b ：工種毎に決まる係数

② 共通仮設費率（施工地域及び加算率の補正後）

$$Kr' = Kr \cdot Sr + x \quad (\text{小数点第3位四捨五入2位止め})$$

Kr' ：共通仮設費率（施工地域補正後）（％）

Kr ：共通仮設費率（補正前）（％）

Sr ：施工地域補正係数

x ：加算率補正（％）（補正を行わない場合は、 $x = 0.00\%$ ）

③ 共通仮設費率（週休2日の補正後）

$$Kr'' = Kr' \cdot Tr \quad (\text{小数点第3位四捨五入2位止め})$$

Kr'' ：共通仮設費率（週休2日の補正後）（％）

Kr' ：共通仮設費率（週休2日の補正前）（％）

Tr ：週休2日の補正係数（補正を行わない場合は、 $Tr = 1.0$ ）

(2) 現場管理費

現場管理費率に乗じる週休2日の補正係数

適用工種 週休2日達成率	右記以外(※2)	港湾工事
100%(※1)	1.05	—(補正なし)
75%以上	1.04	—(補正なし)
50%以上	1.02	—(補正なし)

※1 適用工種が港湾工事の場合は、「4週8休以上」

※2 適用工種：河川工事、河川・道路構造物工事、海岸工事、道路改良工事、鋼橋架設工事、PC橋工事、橋梁保全工事、舗装工事、共同溝等工事(1)、共同溝等工事(2)、トンネル工事、砂防・地すべり等工事、道路維持工事、河川維持工事、下水道工事(1)、下水道工事(2)、下水道工事(3)、公園工事、コンクリートダム工事、フィルダム工事、電線共同溝工事、情報ボックス工事、鋼橋製作工、開削工事及び小口径推進工事、シールド工事及び推進工事、構造物工事(浄水場等)

補正時の現場管理費率計算式

① 現場管理費率（補正前）

現行積算基準に基づいて現場管理費対象額によって算出された率

$$Jo = A \cdot Np^b \quad (\text{小数点第3位四捨五入2位止め})$$

Jo：現場管理費率（%）（補正前）

Np：現場管理費対象額 A, b：工種毎に決まる係数

② 現場管理費率（施工地域及び加算率の補正後）

$$Jo' = Jo \cdot Sr + y \quad (\text{小数点第3位四捨五入2位止め})$$

Jo'：現場管理費率（施工地域補正後）（%）

Jo：現場管理費率（補正前）（%）

Sr：施工地域補正係数

y：加算率補正（%）（補正を行わない場合は、y = 0.00%）

③ 現場管理費率（週休2日の補正後）

$$Jo'' = Jo' \cdot Tr \quad (\text{小数点第3位四捨五入2位止め})$$

Jo''：共通仮設費率（週休2日の補正後）（%）

Jo'：共通仮設費率（補正前）（%）

Tr：週休2日の補正係数（補正を行わない場合は、Tr = 1.0）

8. 随意契約方式における週休2日の調整

(1) 共通仮設費率（施工地域補正係数が適用している場合の一般式）

現工事と当該追加工事で工種が異なる場合は現工事と追加工事の共通仮設費対象額の合計額に対するその主たる工種の共通仮設費率を適用しています。

$$A \leq (D \times \varepsilon 1) - B \times \varepsilon 2$$

A ：当該追加工事の共通仮設費

B ：現工事の対象額

C ：当該追加工事の対象額

D ：合算工事の対象額

$\varepsilon 1 = \beta 1 \cdot Tr①$ ： D に相当する週休2日の補正後の共通仮設費率（%）
（小数点以下第3位を四捨五入して2位止め）

$\beta 1 = \beta ① \cdot Sr①$ ： D に相当する施工地域補正後の共通仮設費率（%）
（小数点以下第3位を四捨五入して2位止め）

$\beta ①$ ： D に相当する施工地域補正前の共通仮設費率

$Sr①$ ： D に相当する施工地域補正係数

ただし、現工事と追加工事の補正係数が異なる場合は B と C の加重平均による補正係数とする。

$$Sr① = \frac{B \times Sr② + C \times Sr③}{B + C}$$

$Sr①$ ：($B + C$)に相当する施工地域補正係数

$Sr②$ ： B に相当する現工事の施工地域補正係数

$Sr③$ ： C に相当する当該追加工事の施工地域補正係数

なお、加重平均した補正係数値は小数点以下第3位を四捨五入して2位止めとする。

$$Tr① = \frac{B \times Tr② + C \times Tr③}{B + C}$$

$Tr①$ ：($B + C$)に相当する週休2日の補正係数

$Tr②$ ： B に相当する現工事の週休2日の補正係数

（補正を行わない場合は、 $Tr② = 1.0$ ）

$Tr③$ ： C に相当する当該追加工事の週休2日の補正係数

（補正を行わない場合は、 $Tr③ = 1.0$ ）

なお、加重平均した補正係数値は小数点以下第4位を四捨五入して3位止めとする。

$\varepsilon 2 = \beta 2 \cdot Tr②$ ： B に相当する現工事の週休2日の補正後の共通仮設費率（%）
（小数点以下第3位を四捨五入して2位止め）

$\beta 2 = \beta ② \cdot Sr②$ ： B に相当する現工事の施工地域補正後の共通仮設費率（%）
（小数点以下第3位を四捨五入して2位止め）

$\beta ②$ ： B に相当する現工事の施工地域補正前の共通仮設費率

ただし、前記計算の場合にあって A が負数になる場合は零額とみなし、追加工事に関する共通仮設費は計上しない。

また、 A が当該追加工事単独で積算された所要額よりも大きい場合は当該所要額とする。

(2) 現場管理費（施工地域補正係数が適用している場合の一般式）

現工事と当該追加工事で工種が異なる場合は、現工事と当該追加工事の純工事費の合計額に対するその主たる工種（それぞれ純工事費の大きい方の工種）の現場管理費率を適用しています。

$$A \cong (D \times \varepsilon_1 + C \times \delta_1) - B \times \varepsilon_2$$

A：当該追加工事の現場管理費

B：現工事の対象額（純工事費）

C：当該追加工事の調整後の対象額（純工事費）

D：合算工事の対象額

$\varepsilon_1 = \beta_1 \cdot Tr①$ ：Dに相当する週休2日の補正後の現場管理費率（%）
（小数点以下第3位を四捨五入して2位止め）

$\beta_1 = \beta① \cdot Sr①$ ：Dに相当する施工地域補正後の現場管理費率（%）
（小数点以下第3位を四捨五入して2位止め）

$\beta①$ ：Dに相当する施工地域補正前の現場管理費率

$Sr①$ ：Dに相当する施工地域補正係数

ただし、現工事と追加工事の補正係数が異なる場合はBとCの加重平均による補正係数とする。

$$Sr① = \frac{B \times Sr② + C \times Sr③}{B + C}$$

$Sr①$ ：(B + C) に相当する施工地域補正係数

$Sr②$ ：Bに相当する現工事の施工地域補正係数

$Sr③$ ：Cに相当する当該追加工事の施工地域補正係数

なお、加重平均した補正係数値は小数点以下第3位を四捨五入して2位止めとする。

$$Tr① = \frac{B \times Tr② + C \times Tr③}{B + C}$$

$Tr①$ ：(B + C) に相当する週休2日の補正係数

$Tr②$ ：Bに相当する現工事の週休2日の補正係数
（補正を行わない場合は、 $Tr② = 1.0$ ）

$Tr③$ ：Cに相当する当該追加工事の週休2日の補正係数
（補正を行わない場合は、 $Tr③ = 1.0$ ）

なお、加重平均した補正係数値は小数点以下第4位を四捨五入して3位止めとする。

$\varepsilon_2 = \beta_2 \cdot Tr②$ ：Bに相当する現工事の週休2日の補正後の現場管理費率（%）
（小数点以下第3位を四捨五入して2位止め）

$\beta_2 = \beta② \cdot Sr②$ ：Bに相当する現工事の施工地域補正後の現場管理費率（%）
（小数点以下第3位を四捨五入して2位止め）

$\beta②$ ：Bに相当する現工事の施工地域補正前の現場管理費率

δ_1 ：当該追加工事の現場管理費補正率（補正率が無い場合は0%とする。）

ただし、前記計算の場合にあってAが負数になる場合は零額とみなし、追加工事に関する現場管理費は計上しない。

また、Aが当該追加工事単独で積算された所要額よりも大きい場合は当該所要額とする。